

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391006			
科目名	設計総合演習	年次配当	1年次
担当者	尾崎 せい子	開講時期	通 年
所 属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

本科で学習した設計力を更に高めるために、設計課題例として2級建築士設計課題を用いる等、実践力の向上に努める。

到達目標

本科で学習した設計力を更に高めるために、過去の二級建築士設計課題を用いて、基本設計及びCAD図面作成を行うことができる。

教材

教科書(テキスト)  
特になし

テキスト以外  
課題プリント

評価方法

提出物70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

二級建築士設計課題を行うにあたり、本科で学習した必要な基礎的な知識は、しっかり復習しておくことが必要である。さらに図面作成のためのCADの復習も行っておくこと。

授業計画

1 設計計画の概要、構想の組み立て方	16 設計課題⑤: 基本スケッチ どのような併用住宅にするか
2 設計課題①: 基本スケッチ どのような専用住宅にするか	17 設計課題⑤: 基本スケッチ 平面計画と空間構想
3 設計課題①: 基本スケッチ 平面計画と空間構想	18 設計課題⑤: プレゼンテーションボードの作成
4 設計課題①: プレゼンテーションボードの作成	19 設計課題⑥: 実施設計図の作成
5 設計課題②: 基本スケッチ どのような専用住宅にするか	20 設計課題⑥: 実施設計図の作成
6 設計課題②: 基本スケッチ 平面計画と空間構想	21 設計課題⑥: 実施設計図の作成
7 設計課題②: プレゼンテーションボードの作成	22 設計課題⑥: 実施設計図の作成
8 設計課題③: 基本スケッチ どのような併用住宅にするか	23 設計課題⑥: 実施設計図の作成
9 設計課題③: 基本スケッチ 平面計画と空間構想	24 設計課題⑦: 実施設計図の作成
10 設計課題③: プレゼンテーションボードの作成	25 設計課題⑦: 実施設計図の作成
11 設計課題④: 基本スケッチ どのような併用住宅にするか	26 設計課題⑦: 実施設計図の作成
12 設計課題④: 基本スケッチ 平面計画と空間構想	27 設計課題⑦: 実施設計図の作成
13 設計課題④: プレゼンテーションボードの作成	28 設計課題⑦: 実施設計図の作成
14 前期提出課題の作成	29 最終提出課題の作成
15 前期提出課題の作成	30 まとめ

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391015			
科目名	修了研究	年次配当	1年次
担当者	専任教員	開講時期	通年
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	6単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

自分で課題を設定して自主的に学び、研究する姿勢を養うことをねらいとしている。各自が研究分野に関係する教員の指導と助言をうけながら、テーマを決めて研究を進めてゆき、その成果を論文や作品としてまとめ、発表する。

到達目標

受動的でなく、能動的に自ら選んだ課題に長期間にわたって計画的に取り組み、まとめる能力を養うことができる。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

担当教員により、研究テーマに関連する資料・参考文献、現地見学・調査の助言が行われる。

評価方法

提出物70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

従前までに学んだことを基に、自分の能力を興味のある分野に伸ばすように積極的に取り組み、まとめとして様々な機会を捉えて発表を行う。

授業計画

担当教員            テーマ ( 例 )

中村光彦……住生活の変化が住宅の形態におよぼす影響の例。現代庶民住宅の発展の新しい歴史。木造建築細部の研究。

河村壮一郎……色彩の心理的効果について実験・調査を通して理解を深める。

浅井秀子……「街並み、歴史的環境を保全する。」というテーマで、地方小都市におけるまちづくりを伝統的建造物群保存地区において、実測調査し分析する。

前田夏樹……市及び県の美術展覧会への入選・受賞レベルの作品制作。地域交流の一環としての作品作り(和紙の照明)とそれを使ったウインドウディスプレイ。

田上重雄……「産業支援としてのデザインの変遷と人材」をテーマとして県内産業デザインに係る調査研究。  
地域の素材や技術を活かしたデザイン研究。

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391018			
科目名	建築計画特論	年次配当	1年次
担当者	中村 光彦	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

日本の伝統的建築、住居形式について更に勉学を進め、その系譜や山陰地方での特色を考える。また、都市や田園における、集合としての建築、住居の在り方を検討し、将来の地域の資産としての特性や問題点、また景観形成の一要素としての役割を明らかにする。

到達目標

建築計画における伝統、歴史性、地域性、文化性等についての理解を深め、以上に係わる二級建築士学科試験問題が解ける程度。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

評価方法

試験70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

建築は単に生活の容器でなく、文化遺産であり、今後の文化創造の大きな道具であることを一緒に確認したい。

授業計画

- 1 環境と建築(1)
- 2 環境と建築(2)
- 3 地域性と建築(1)
- 4 地域性と建築(2)
- 5 現代日本の建築の多様性、地域と立地による変化
- 6 近年の工業化、大資本参入による変化
- 7 文化遺産としての建築(1)
- 8 文化遺産としての建築(2)
- 9 リノベーションと建築(1)
- 10 リノベーションと建築(2)
- 11 景観要素としての建築
- 12 生活様式の変化と住居
- 13 持続可能な文明と建築
- 14 個別研究のまとめ(1)
- 15 個別研究のまとめ(2)

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391019			
科目名	建築管理学	年次配当	1年次
担当者	中村 光彦	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

優良な社会的資産形成の見地から、LCC（ライフサイクルコスト）等について考え、建設から廃棄までの維持管理に関する社会的仕組みなどについて検討し、優良な社会的資産としての長期耐久性住宅等、住宅ストックの在り方等を考える。

到達目標

建築計画におけるライフサイクルコスト等について、良質な社会資本の形成、建築経済等に係わる観点等についての理解を深め、以上に係わる二級建築士学科試験問題が解ける程度。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

配布資料 見学・調査

評価方法

試験70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

日本の建築が国際的に見て非常に短寿命であることが問題になっている。建築は大きな耐久消費財ではなく、生活伝統を伝える重要な社会的資産である。考え方の転換と適切な維持管理により、建築寿命の何倍もの増大が可能であり、それが経済的のみならず、今日の環境問題等にも資することになる。

授業計画

- 1 建築の建設から廃棄までの費用の分析
- 2 建築の建設から廃棄までの費用の分析
- 3 LCC計画
- 4 LCC計画
- 5 各部材の本来の寿命と組み合わせ寿命
- 6 建て替え理由の分析
- 7 長寿化の物理的対策
- 8 長寿化の社会的対策
- 9 維持管理の主体、関連業種
- 10 伝統住宅の持続性を支えて来たもの
- 11 具体事例（在来工法、プレハブ、共同住宅）の分析
- 12 具体事例（在来工法、プレハブ、共同住宅）の分析
- 13 具体事例（在来工法、プレハブ、共同住宅）の分析
- 14 新しい状況の予測と長期耐久性住宅
- 15 まとめ

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391003			
科目名	集合住居と社会福祉施設論	年次配当	1年次
担当者	尾崎 せい子	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

今後の高齢社会における集合住宅や社会福祉施設のあり方について、海外の先進事例も学びながら、今後の生活システムを究明する。

到達目標

過去の日本における集合住宅の変遷を理解するとともに、「同潤会アパート」について理解することができる。そして身近な福祉施設の現状を調べることができる。

教材

教科書(テキスト)  
特になし

テキスト以外  
日本における集合住宅計画の変遷  
高田光雄(放送大学)

評価方法

レポート40%、提出物30%、授業態度30%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

日本の集合住宅の代表例である「同潤会アパート」についての基礎的知識をもつことや、一度は身近な福祉施設の見学等を行っておくようにする。

授業計画

- 1 授業内容の概説
- 2 日本の集合住宅の変遷
- 3 集合住宅団地の誕生—同潤会アパート
- 4 集合住宅の普及と定型化
- 5 高層アパート誕生と特徴
- 6 ニュータウン計画の変遷
- 7 日本の現代集合住宅
- 8 住まい手参加型の集合住宅計画
- 9 日本の社会福祉施設(1)
- 10 日本の社会福祉施設(2)
- 11 日本の社会福祉施設(3)
- 12 日本の社会福祉施設(4)
- 13 海外の社会福祉施設(1)
- 14 海外の社会福祉施設(2)
- 15 まとめ

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391007			
科目名	建築CAD演習	年次配当	1年次
担当者	尾崎 せい子	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

建築社会での、実際の製図をCAD入力する。

到達目標

教科書よりも一歩奥に踏み込んだ図面を描くことで、建築を理解することができる。

教科書(テキスト)  
初めての建築CAD

テキスト以外  
作成した分を適宜配布する

評価方法

試験30%、提出物50%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

CAD I・IIで学んだ基本事項を実践する。  
実施図面をトレースすることによって、建築社会を学ぶ。

授業計画

- 1 木造住宅を描く①：平面図を描く
- 2 木造住宅を描く②：立面図を描く
- 3 木造住宅を描く③：仕上表を描く
- 4 木造住宅を描く④：矩計図①を描く
- 5 木造住宅を描く⑤：矩計図②を描く
- 6 木造住宅を描く⑥：階段詳細図①を描く
- 7 木造住宅を描く⑦：階段詳細図②を描く
- 8 木造住宅を描く⑧：平面詳細図①を描く
- 9 木造住宅を描く⑨：平面詳細図②を描く
- 10 木造住宅を描く⑩：展開図を描く
- 11 木造住宅を描く⑪：建具平面図を描く
- 12 木造住宅を描く⑫：建具表①を描く
- 13 木造住宅を描く⑬：建具表②を描く
- 14 木造住宅を描く⑭：基礎伏図等①を描く
- 15 木造住宅を描く⑮：基礎伏図等②を描く

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391016			
科目名	デザイン特論	年次配当	1年次
担当者	専任教員	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

本科のデザイン概論を起点として、私たちの生活が何一つデザインにかかわらないものは無いことを認識し、デザイン研究への理解を深める。さらにデザインがこれまで関わってきた住居・デザインの領域で関わってくるであろう今日的なデザインの意義、領域を広げ、問題解決手法としてのデザインの概念を理解する。

到達目標

- ・国内外の建築、インテリアデザイン及びグラフィック、プロダクト、美術・工芸の現状を把握するとともに、県内の活動現場を知ることにより、自分の進路の参考とする。
- ・デザイン活動を継続するうえで、今日的なデザインの意義や概念を研究し提案できる。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

プリント/映像と画像

「世界デザイン史」阿部公正監修/美術出版社

評価方法

試験50%、小テスト10%、提出物20%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

パワーポイントおよび画像とDVD映像による講義の概要を授業時に提出する。県内の関連施設、関連企業、作家、地域など学外見学を多く予定し、日々、深くかかわっているデザインのある生活を見つめて考えよう。そしてデザインの専門的な知識と技術を深めるとともに、デザイン感覚を高め、修了研究など制作活動に効果的に活用してほしい。

授業計画

1	建築デザイン	中村光彦
2	建築デザイン	中村光彦
3	建築デザイン	中村光彦
4	建築デザイン	尾崎せい子
5	建築デザイン	尾崎せい子
6	建築デザイン	尾崎せい子
7	ビジュアルデザイン	前田夏樹
8	ビジュアルデザイン	前田夏樹
9	ビジュアルデザイン	前田夏樹
10	プロダクトデザイン	田上重雄
11	プロダクトデザイン	田上重雄
12	プロダクトデザイン	田上重雄
13	心理学とデザイン	河村壮一郎
14	心理学とデザイン	河村壮一郎
15	心理学とデザイン	河村壮一郎



専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391023			
科目名	商品開発演習	年次配当	1年次
担当者	田上 重雄	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	10名

授業概要

さまざまな企業活動の中で最もドラマティックであり、第三者にとっても関心が高いのは新商品を開発する作業ではないだろうか。日常生活の生活用具や生活空間の分析を基にプロダクトデザイン・クラフトデザインを中心に、ものづくりを目指した商品企画関連知識、技術を学ぶ。またこの授業内容を充実させるために、産業界や生活者のシーズ、ニーズを知るためにも必要に応じて企業見学など学外授業も行う。

到達目標

- ・商品開発プロセスはある意味でマーケティング作業の典型が集約されたパターンであることを理解する。
- ・基本的な商品開発プロセスに沿って各場面で必要とされる項目を学び、知識・技術などを身につける。
- ・具体的な商品開発課題を設定し、デザイン手法を活かして企画案を作成し提案発表を行う。

教材

教科書(テキスト)

「売れる商品デザインの法則」(日本能率協会マネジメントセンター)  
「プロダクトデザイン」逸見健次郎/美術出版

テキスト以外

参考書:「工芸デザイン技法事典」鳳山社  
商品開発手法修得に参考となる画像や映像。その他、製図用具、マーカー、色鉛筆、モデリング用具など。

評価方法

実技50%、提出物40%、授業態度10%  
基本的に試験はなく、実技課題の内容及び提出物の内容/授業態度が評価の対象となる。

学生に対するメッセージ(準備学習等)

商品開発に必要な周辺知識や、技術を学びながら自発的に開発テーマを設定し、独創的なデザインの実験と研究を進めながら多種多様な商品開発手法を体験してください。また学外での具体的な商品開発やデザインコンペにもチャレンジしてください。

授業計画

- 1 オリエンテーション・授業の概要とテキスト及び準備用具について
- 2 商品開発におけるデザインの世界
- 3 商品企画とマーケティング
- 4 企画演習(アイデア発想と表現手法)
- 5 企画演習(アイデア発想と材料及び加工法)
- 6 企画演習(アイデア発想と設計手法)
- 7 市場ニーズを想定した独自の開発テーマ設定 特別講師
- 8 アイデアの抽出と企画案の展開
- 9 アイデアの抽出と企画案の設定
- 10 企画案を基にしたデザイン・試作演習
- 11 企画案を基にしたデザイン・試作演習
- 12 企画案を基にしたデザイン・試作演習
- 13 企画案を基にしたデザイン・試作演習
- 14 企画案を基にしたデザイン・試作演習
- 15 実習のまとめ、プレゼンテーション、評価

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391025			
科目名	コンピュータグラフィックス特論 I	年次配当	1年次
担当者	前田 夏樹	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

本科で学んだコンピュータに関する知識と技術をベースに、作品制作を中心に行う。ここでは雑誌の作成を行うことにより、制作過程や取材方法などを実践的に学習することができる。

到達目標

- ・雑誌制作に関わる取材や資料収集、編集、紙面制作、印刷といった一連の過程を実際に制作しながら体験し、その方法を身につける。
- ・雑誌のテーマを自分の関心事項にし、取材や資料収集を行うことで、自分自身や他の学生の趣味・嗜好についての理解を深める。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

評価方法

実技20%、授業態度20%、発表10%、提出物50%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

世の中にはたくさんの雑誌が出回っていますが、自分が本当に読んでみたいと感じるものはどれだけあるでしょうか?もし面白い雑誌がないのなら自分で作ってみましょう。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 キャラクターデザイン
- 3 キャラクターデザイン
- 4 キャラクターデザイン
- 5 雑誌について
- 6 内容検討、ページ構成
- 7 取材・資料収集
- 8 取材・資料収集
- 9 取材・資料収集
- 10 雑誌制作
- 11 雑誌制作
- 12 雑誌制作
- 13 雑誌制作
- 14 印刷
- 15 相互評価

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391029			
科目名	学外専門実務実習	年次配当	1年次
担当者	専任教員	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	実習		
単位数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

学外の建築設計事務所・建築関連の施工会社の設計部、デザイン会社・印刷会社のデザイン部等で実務に参加させていただき、建築がどのように設計され、施工されていくかその仕組みを知ったり、デザイン会社等の仕事の様子を知る。将来専門職を希望する者にとっては貴重な体験である。

到達目標

本科での学外実務経験を活かし、より長期間の社会における実務体験を通して、教室や書物等で学んだ知識を確認し、改めて専門職についての理解を深めることができる。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外  
資料配布

評価方法

提出物80%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

実社会での生の体験により、机上の学習で充分把握できなかった知識がより鮮明に理解できます。同時に就労に対する意欲付けや進路を決める際の参考ともなります。

授業計画

- 1 事前研修(実習の研修内容と心構え)
- 2 各企業での研修ならびにその記録とレポート作成
- 3 //
- 4 //
- 5 //
- 6 //
- 7 //
- 8 //
- 9 //
- 10 //
- 11 //
- 12 //
- 13 //
- 14 //
- 15 事後研修(相互報告とまとめ)

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391020			
科目名	建築法規特論	年次配当	1年次
担当者	中村 光彦	開講時期	後期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b>			
<p>法に言う「特殊建築物」でない一般住宅に関する都市計画法、建築基準法などの法規の内容、適用範囲、施行慣行を検討し、法制度の意味と問題点を考える。将来の環境整備のための重要な道具としての法制度の在り方を探る。</p>			
<b>到達目標</b>			
<p>建築計画を考えて行く上での法的規制、その基本的考え方等についての理解を深め、以上に係わる二級建築士学科試験問題が解ける程度。</p>			
<b>教材</b>			
教科書(テキスト)	テキスト以外	配布資料	調査
	建築法規集		
<b>評価方法</b>			
試験70%、授業態度30%			
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>			
<p>法律は、建築や都市に関するものでも、ただ専門家に関係するのではなく、一般社会にとっても大切なものであるべきです。このような視点から法規の勉強をし直します。</p>			

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学ぶ意味</li> <li>2 社会的規範としての法と倫理</li> <li>3 法の体系</li> <li>4 建築基準法の基本理念</li> <li>5 建築基準法の基本構成</li> <li>6 仕様書の規定について(1)</li> <li>7 仕様書の規定について(2)</li> <li>8 性能書の規定について(1)</li> <li>9 性能書の規定について(2)</li> <li>10 誘導基準について</li> <li>11 建築協定について</li> <li>12 建築士法の社会的意味と問題点</li> <li>13 都市計画法と建築基準法との関わり</li> <li>14 景観法の意味と問題点</li> <li>15 まとめ</li> </ol>

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391021			
科目名	構造デザイン演習	年次配当	1年次
担当者	川端 康洋	開講時期	後期
所属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

建築（住居）の構造デザインに必要な架構の力学的な知識を、プリント教材等を用いて易しく説明し、時間をかけて演習を行います。

到達目標

1・2級建築士の構造の受験勉強ができる程度の構造デザインに関する基礎力を身につける。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

必要に応じて、ビデオ教材、パワーポイント等を用いる。

評価方法

試験30%、レポート20%、演習50% により総合評価する。

学生に対するメッセージ

本科の構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、構造デザインを選択している事が望ましい。

授業計画

- 1 木構造について講義と演習
- 2        "
- 3        "
- 4        "
- 5        "
- 6 鉄筋コンクリート構造について講義と演習
- 7        "
- 8        "
- 9        "
- 10       "
- 11 鉄骨構造について講義と演習
- 12       "
- 13       "
- 14       "
- 15       "

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391008			
科目名	環境と生活	年次配当	1年次
担当者	専任教員	開講時期	後期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

住生活環境の快適性、安全性、利便性を追求する方法やその結果について考察する。

到達目標

住生活環境について、従前まで学んだことを基に様々な角度から改めて考え、認識を深めることができる。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

評価方法

提出物60%、授業態度40%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

専門分野の知見と関連づけて、私たちの生活環境について理解を深めたい。

授業計画

1	住居と環境	1	中村光彦
2	〃	2	中村光彦
3	〃	3	中村光彦
4	インテリアと環境	1	尾崎せい子
5	〃	2	尾崎せい子
6	〃	3	尾崎せい子
7	グラフィックデザインと環境	1	前田夏樹
8	〃	2	前田夏樹
9	〃	3	前田夏樹
10	工業デザインと環境	1	田上重雄
11	〃	2	田上重雄
12	〃	3	田上重雄
13	心理的生活環境	1	河村壮一郎
14	〃	2	河村壮一郎
15	〃	3	河村壮一郎

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391009			
科目名	生活心理学特論	年次配当	1年次
担当者	河村 壮一郎	開講時期	後期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

衣食住など生活に関わる人間行動について心理学的に学習します。また、受講者の興味のある専門分野について調査やアンケートなどの方法に基づいた分析をしていきます。

到達目標

私たちの身近な生活活動を心理学の観点から理解を深めます。また、心理学的な調査を行う手順を学習し、特定のテーマについてまとめます。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

評価方法

レポート80%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

この授業では学習者の主体的な取り組みを期待しています。生活に関する特定のテーマについて深く理解することを学びます。

授業計画

- 1 生活心理学 導入
- 2 衣に関わる人間行動
- 3 食に関わる人間行動
- 4 住に関わる人間行動
- 5 デザインに関わる人間行動
- 6 理解をすすめる方法 情報検索
- 7 理解をすすめる方法 調査法
- 8 調査の実践 調査テーマの決定
- 9 調査の実践 調査方法の決定
- 10 調査の実践 調査の実施
- 11 調査の実践 調査結果の集計
- 12 調査の実践 調査結果の分析
- 13 調査の実践 調査のまとめ
- 14 テーマについての総合的検討
- 15 討議・総括

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391024			
科目名	グラフィックデザイン特別演習	年次配当	1年次
担当者	前田 夏樹	開講時期	後期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

これまで学んだ様々な表現方法をベースに、本科ではあまり触れなかった動画を使った学習を行う。動画編集ではストーリーを考え、それに基づいた取材や素材の作成などを行う。

到達目標

- ・絵コンテ制作から、素材制作、撮影、編集まで動画制作の過程を経験する
- ・動画制作を行うことで時間や空間といったより多面的な視野を身につける。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

評価方法

実技30%、提出物50%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

テーマや表現方法を決めるのは自分自身です。自分の個性を作品で表現してください。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ストーリー構成
- 3 絵コンテ作成
- 4 絵コンテ作成
- 5 絵コンテ作成
- 6 素材収集、制作
- 7 素材収集、制作
- 8 素材収集、制作
- 9 撮影
- 10 撮影
- 11 撮影
- 12 編集
- 13 編集
- 14 編集
- 15 編集

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391011			
科目名	インテリアコーディネート	年次配当	1年次
担当者	宮川 淳子	開講時期	後期
所属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

美しい居心地のいい室内空間を創り出すためのコーディネート手法の習得を目指します。住む人のライフスタイルを考慮したデザイン提案をするため、室内を構成するインテリア商品や仕上げ材等に関する知識と快適性、機能性、利便性などにも配慮したバランス感覚あるインテリア計画とプレゼンテーションを学習します。

到達目標

部屋別コーディネートの企画からプレゼンテーションまで実践的な手順も含めたトータルな学習。住む人のコンセプトを「かたち」としてパース（スケッチ）図面等で具体化し、サンプル等も含めたプレゼンテーションでその「意味」を人に伝えるテクニックを習得する。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
やさしいインテリアコーディネート 宮後浩著 学芸出版 他資料配布	参考書 暮らしとインテリア1、2 インテリア産業協会発行

評価方法

小テスト20%、授業態度20%、提出物50%、発表10%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

美しいコーディネートの提案を目指すためには日常生活において素敵な家具や色に囲まれ、いい空間にいることを感じ、心豊かに過ごすことも大切です。又さまざまな空間を体験したり、映画、小説、専門誌などからヒントを得たり、又インテリアのトレンドも常にリサーチしておくことも必要です。

授業計画

1	インテリアコーディネーションの基本（イメージとライフスタイル）
2	インテリア色彩論（色彩の基本を活用し、空間のカラー演習） カラースキーム ①
3	” ②
4	” ③（インテリアカラーブックより）
5	インテリアを構成するもの（環境 機能 構造 材料 設備等）
6	スペースプランニング（人間工学と部屋別レイアウト）
7	家具とデザイン（歴史、デザイン、機能性等）
8	照明計画（種類、デザイン、機能性等）
9	ウィンドウトリートメント（窓装飾スタイル、ファブリックの選択）
10	インテリアアクセサリ（インテリア小物の選択とアレンジ）
11	部屋別コーディネート 公室ゾーン（リビング、ダイニング）
12	” 私室ゾーン（寝室、子供室 書斎）
13	リフォーム計画（増改築から水まわり、バリアフリーまで）
14	総合プレゼンテーション最終自由課題 ①
15	” ②

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391026			
科目名	コンピュータグラフィックス特論Ⅱ	年次配当	1年次
担当者	石田 英一	開講時期	後 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b> Illustrator&Photoshopなどを用いて、実際の現場に近いデザイン制作を行う。
<b>到達目標</b> 与えられた課題に的確に応えることのできるデザインを考え、制作することができる。
<b>教材</b> 教科書 (テキスト) テキスト以外 未定
<b>評価方法</b> 実技40%、提出物40%、授業態度20%
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b> ソフトの使い方にとどまらず、“デザインする”とはどういうことなのかデザインにはどんな力が秘められているのか、制作を通じて考えてみましょう。

<b>授業計画</b> 1 オリエンテーション 2 企業活動の中のデザイン1 3 企業活動の中のデザイン2 4 企業活動の中のデザイン3 5 ロゴマーク制作1 6 ロゴマーク制作2 7 ロゴマーク制作3 8 公募課題の制作1 9 公募課題の制作2 10 公募課題の制作3 11 公募課題の制作4 12 公募課題の制作5 13 公募課題の制作6 14 ポートフォリオ制作1 15 ポートフォリオ制作2
--

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391030			
科目名	西洋の芸術	年次配当	1年次
担当者	前田 明範	開講時期	後 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	講義		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	10名

<b>授業概要</b>	
日本の美術と西洋の美術を対比しながら影響関係をたどる。	
<b>到達目標</b>	
日本の美術が西洋の美術をどのように受け入れ、吸収し、表現された作品がどう変遷していったかを美術史的に考察することができる。	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) 西洋美術史 (美術出版社)	テキスト以外 レジメを配布
<b>評価方法</b>	
レポート70%、授業態度30%	
<b>学生に対するメッセージ (準備学習等)</b>	
西洋美術だけを見るのではなく、自分たちが暮らす日本の美術をとおして捉え直し、接点を考察しながら交流の歴史をたどります。近代では交流の過程を作品鑑賞も取り入れ具体的な体験からも学びます。	

<b>授業計画</b>
1 日本美術と西洋美術の差異
2 近世における受容 南蛮屏風から円山応挙の写生体
3 近世から近代へ 平賀源内、亜欧堂田善、秋田蘭画、高橋由一
4 ヨーロッパにおけるジャポニスム
5 明治前期 油彩画技術の導入、日本画における西洋的視点の応用
6 明治後期 フランスをはじめとするヨーロッパへの留学
7 大正から昭和前期 モダニズムの移入
8 大原美術館の果たした役割
9 大原美術館での現地研修
10 //
11 //
12 //
13 前田寛治の場合
14 昭和後期から現代 表現の多様性と同時多発性
15 まとめ レポート作成に向けて

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391027			
科目名	工芸技術演習	年次配当	1年次
担当者	田上 重雄・大谷 治	開講時期	後 期
所 属	生活学科住居・デザイン専攻・非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b>	
<p>身の回りの工芸品やクラフト商品など歴史の中で培われてきた工芸の技術、創造力、美の科学を知り、工芸に関わる知識と基礎的な素材別工芸技術を体験する。また学外に出かけ県内工芸家とのふれあいや、国内外の工芸品に触れる機会を作り、工芸が人間生活の中で育まれた物づくりの文化であることを体感する。そのために学内で工芸の知識と基本的な技術を実習する。さらに県内工芸家と連携した体験実習を行う。</p>	
<b>到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・工芸技術の基本である芸術と素材加工技術の知識を理解し、基本的な技術を体験する。</li> <li>・県内工芸家の下でガラス工芸に関する知識と技術を学び実習の中で作品を制作する。</li> <li>・工芸技術に関する知識・技術・歴史について学ぶとともに、県内工芸・文化の再認識する。</li> </ul>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト)	テキスト以外
「工芸デザイン技法事典」 杉山明博他／鳳山社	教材：スライド、工芸品見本、材料工具：スタンドグラス、粘土、石膏、木材、金属及び関連工具、製図用具
<b>評価方法</b>	
実技50%、小テスト10%、授業態度20%、提出物20%	
<b>学生に対するメッセージ（準備学習等）</b>	
<p>工芸は人間生活の衣食住の文化の中で育まれた機能美と芸術美、科学と神話の結晶であり物を作ることは人類百万年の歴史であるといっても過言ではない。自分の身の周りのすぐれた工芸品をとおして、その作り手の技術や感性に触れながら工芸に関わる知識と素材別工芸技術を体験し、具体的な物づくりの楽しさを味わってください。</p>	

<b>授業計画</b>		
1	オリエンテーション（授業計画、工具、工芸材料に関する解説など）	田上重雄
2	工芸技術概論（工芸全般の素材・技術・デザインについて）	田上重雄
3	木工技術演習（木製器のデザインと制作）	田上重雄
4	木工技術演習（木製器のデザインと制作）	田上重雄
5	土と石膏技術演習（石膏型の成型技法と陶芸）	田上重雄
6	土と石膏技術演習（石膏型の成型技法と陶芸）	田上重雄
7	土と石膏技術演習（石膏型の成型技法と陶芸）	田上重雄
8	ガラス工芸技術演習（スタンドグラス作品制作）	大谷治
9	ガラス工芸技術演習（スタンドグラス作品制作）	大谷治
10	ガラス工芸技術演習（スタンドグラス作品制作）	大谷治
11	ガラス工芸技術演習（スタンドグラス作品制作）	大谷治
12	金属工芸演習（金属材料による作品制作）	田上重雄
13	金属工芸演習（金属材料による作品制作）	田上重雄
14	金属工芸演習（金属材料による作品制作）	田上重雄
15	金属工芸演習（金属材料による作品制作）	田上重雄

専攻科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

391028			
科目名	工業材料加工法	年次配当	1年次
担当者	田上 重雄	開講時期	後 期
所 属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

有機材料、無機材料そして自然素材まで多種多様の材料があるが、工業製品への素材要求は強度、重量、成形性、質感や科学的特性や美しさなど、製造する製品によってさまざまである。この材料は使用される用途によって材料別に加工法も異なるため加工法や製造技術の知識を身につける必要がある。そのため授業は学内に止まらず、企業見学や試験研究機関での材料加工実験など直接材料に触れたり加工状況を見たりして理解を深める。

到達目標

- ・工業製品に使われる素材の科学的特性を知るとともに、材料の加工法から製造する製品によってさまざまに考案された成形法などの知識を身につける。
- ・特に工業材料として代表的な木質、高分子、セラミックス、金属の材料の科学的特性や、その製造法、加工法に関する知識を深める。

教材

教科書(テキスト)  
特にありません

テキスト以外

教材：プリント、DVD、参考書など  
その他：材料見本や加工見本など

評価方法

レポート30%、小テスト20%、授業態度20%、提出物30%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

この授業では木質、高分子、セラミックス、金属の材料について科学的特性やその製造法、加工法などについて学びます。授業は学内に止まらず、企業見学や試験研究機関での材料加工や実験など直接材料に触れたり、加工状況を見たりする機会があります。工業材料並びに加工法などの知識を深めて現代生活を見直してください。

授業計画

1	オリエンテーション（授業計画と概要説明、教材）	田上重雄
2	材料の歴史と技術の歴史（工業材料全般の概要及び加工法）	田上重雄
3	木質材料と加工法について	特別講師 谷岡明和
4	木質材料と加工法について	特別講師 谷岡明和
5	木質材料と加工法について	特別講師 谷岡明和
6	高分子材料と加工法について	特別講師 木村伸一
7	高分子材料と加工法について	特別講師 木村伸一
8	高分子材料と加工法について	特別講師 木村伸一
9	セラミックス材料と加工法について	田上重雄
10	セラミックス材料と加工法について	田上重雄
11	セラミックス材料と加工法について	田上重雄
12	金属材料と加工法について	特別講師 鈴木孔明
13	金属材料と加工法について	特別講師 鈴木孔明
14	金属材料と加工法について	特別講師 鈴木孔明
15	工業材料としてのエコマテリアル	田上重雄